



会場のほか、富山・石川・福井からオンラインで聴講した方もいました

金沢支店発

コロナ禍における 販路開拓セミナーを開催

北陸若手農業者勉強会に、農業コンサルタントとして活躍する、株式会社結アソシエイト代表取締役の松田恭子氏がリモートで登壇。コロナによる消費動向の変化や、商品の独自性を見出す手法、販路開拓に取り組む農業者の事例について学び、講師と参加者の間で積極的な意見交換がおこなわれました。

参加者からは、「コロナ禍でお客さまが何を必要としているのかを自社で分析し、販路開拓に取り組みたい」といった声が寄せられました。

1月25日、於…金沢市、参加者…北陸3県の農業経営者など40人

盛岡支店発

オンラインで広がる輪 新規就農者の交流会

J A岩手県信連と新規就農者交流会を共催。この交流会は、新規就農者が気兼ねなく連絡を取りあえる仲間や、経営について相談できる先輩農家などとの出会いの場を提供することを目的に、昨年度から実施しています。今年度は新型コロナウイルス感染症の流行状況を踏まえ、オンラインで開催しました。

先輩農家として、株式会社いわて若江農園（盛岡市・トマト生産）代表の若江俊英氏、株式会社重次郎（雫石町・肉用牛生産）代表の中屋敷敏晃氏に、自社の経営を紹介していただいた後、ウィズコロナ時代における販路確保や生産管理、雇用の活用などをテーマにグループディスカッションをおこないました。

参加者からは「法人化に至るまでの先輩農家の経験談が非常に参考になった」「耕畜連携など新たな事業構想のヒントとなる話が聞け、経営意欲が高まった」といった感想が寄せられました。

1月26日、於…盛岡市、参加者…県内農業経営者など13人



適切な感染防止措置をとり、参加者が会場で実際に顔を合わせて意見を交わしました

松山支店発

労務管理の改善で めざせOne team

愛媛県農業次世代の会「愛媛One team」事務局・松山支店では、労務管理をテーマとしたセミナーを実施。社会保険労務士の進行の下、労務面の経営課題の掘り下げや、公庫の課題解決サポート事業を活用して職場の活性化や社内環境整備に取り組んだ事例の紹介、意見交換をおこないました。

参加者からは「仲間の事例が自分の課題解決に応用できそう」「今後、人を雇用するうえでの課題がイメージしやすくなった」などの感想が寄せられました。

2月2日、於…松山市、参加者…県内農業経営者ら12人

アグリフードEXPO オンライン開催報告

2020年11月2日から21年3月31日に、国産農水産物をテーマとした展示商談サイト「アグリフードEXPOオンライン」を開設。全国から173の農業経営者や食品企業が出展し、魅力ある農産物や、地元産品を活用したこだわりの食品を、積極的にバイヤーにPRしました。

バイヤーから出展者に対する商談の引き合いは391件で、うち270件が商談に進みました（4月8日時点）。また、運営事務局が出展者とバイヤーをつなぐ「コンシェルジュ」となり、成約に向けたきめ細かいサポートをおこない、商談件数の1割強が成約に結び付きました。

「コンシェルジュを通じて、商品に対するバイヤーの評価がフィードバックされ、リアル開催のように、バイヤーの反応や求めている商品を知ることができたのは良かった」（出展者）、「当社の求める商品をコンシェルジュに提案してもらい、成約につながった」（バイヤー）などの感想が寄せられました。

（詳細は次号でお知らせします）

ご意見・ご感想をお寄せください

AFCフォーラムは農林漁業者、食品事業者の皆さまに役立つ誌面づくりをめざしています。参考になった記事、取り上げてほしい企画、お気づきの点など、どのようなことでも結構ですので、メール、FAX、電話、郵送により編集部までお寄せください。薄謝を進呈します。

メール anjoho@jfc.go.jp

※こちらのコードもお使いください →



FAX 03-3270-2350

電話 03-3270-2268

郵送 〒100-0004

東京都千代田区大手町1-9-4

日本公庫農林水産事業本部情報企画部

AFCフォーラム編集部あて

◆2月号「新時代林業の潮流を追う」では、「観天望気」の後藤さん、「みんなの広場」の矢房さんの卓見に感銘を受けました。後藤さんには「時間の遠近・百年先への洞察が必須」を、矢房さんは「日本人には生来、自然を制御する思想はない。人知の限度を知り、自然には一歩引いて止まれ」とのご提言です。

日本人は古来、山を神としてあがめてきました。しかも山は国土の約7割を占め、森林は地球温暖化の原因となるCO₂の最大の吸収源です。私たちの時代に神を侮辱するような対応をしないように、両者の卓見に心したいものです。

(鹿児島市 吉見満雄)

◆3月号拝読。10年前の今ごろ、自身は営農開始4年目。私たちが描く限りなく自然に近い営農は、収益性こそ劣る反面、災害に強いとも認識した。その後、幾多の事象に見舞われ、いまの営農体系になった。災害の多い国土で、迅速な営農活動の再開、環境負荷を抑えた持続性対応など、この体系の内包するポテンシャルは魅力的。万能ではないが、私たちの理想に合致する。

ライフラインも営農の生命線と位置付け、緊急時の対処も普段から意識することが必要と考える。ICT花盛り、第三のニューノーマル到来といわれるとき、自然回帰も一考ではないか。(北杜市 菲澤靖)

AFCフォーラム 合併号 2021.4・5

編集

前田 美幸 平野 伸介 高雄 和彦
山本 晶子 大谷 香織 城間 綾子
竹中 夕美

編集協力

青木 宏高 村田 泰夫

発行

株式会社日本政策金融公庫
農林水産事業本部
〒100-0004
東京都千代田区大手町1-9-4
大手町フィナンシャルシティ ノースタワー
Tel. 03(3270)2268
Fax. 03(3270)2350
E-mail anjoho@jfc.go.jp
ホームページ <https://www.jfc.go.jp/>

印刷 佐伯印刷株式会社

販売

株式会社日本食糧新聞社
〒104-0032
東京都中央区八丁堀2-14-4 ヤブ原ビル
Tel. 03(3537)1311
Fax. 03(3537)1071
ホームページ
<http://info.nissyoku.co.jp/koudoku/>
お問い合わせフォーム
http://info.nissyoku.co.jp/modules/form_mail/

定価 523円(税込)

編集後記

◆旧知の農水省国際政策課長の西さんから「来年は栄養や食料システムをテーマとした首脳級会議が複数開催される『食料イヤー』。AFCフォーラムで取り上げてはどうか」との提案を受け、今月の特集となりました。

食料システムには幅広い問題が含まれます。これまでの価値観の転換も必要です。私たち一人ひとりの具体的な行動が問われています。(平野)

◆「新農業人」に登場いただいた山田さん夫妻。印象的だったのは、お二人にあくせくしたところがないこと。その余裕が牛にも伝わるのか、牛も実にのんびりした表情をしていました。目が行き届く程度の規模で、人にも牛にも優しい「スローライフ酪農経営」を実践されているお二人。酪農経営の新たな一つの形である取り組みをぜひ一読ください。(高雄)

◆構成を一部変更し写真やエッセイを増やしています。先日、「毎月、表紙を楽しみにしている」というお便りをいただきました。写真選びは農家の方だけが見ることのできる一瞬の光景を心がけています。今号の帯の色はエヴァーグリーン。イメージは新緑です。お便りがありがたく、よし頑張ろうと改めて気合いが入りました。ご意見ご感想をお待ちしています。(城間)

◆「採用面接で欠点より長所を探してしまおう」とは、「変革は人にあり」の本さん。その言葉に「企業は人なり」という昭和の経営者の言葉を思い出しました。生産性向上、業務効率化が叫ばれ、世の中はDX推進に向けて目まぐるしく動いています。どんな仕事でも始まりは人から。日々の言葉がけや出会いを大切にしたいと改めて思いました。(竹中)